

北斎

かわらばん

第二十六号



諸国名橋奇覧

かうつつけ佐野の
ふなはしの古づ

「諸国名橋奇覧 かうつつけ佐野ふなはしの古づ」(大判錦絵) 天保初年(1833~34)頃

日本各地の橋を題材にした「諸国名橋奇覧」シリーズの二図です。本シリーズは、全十一図が知られています。ここに描かれているのは、現在の群馬県高崎市の烏川にかつていたと伝わる舟橋と考えられています。

舟橋とは、本図に描かれているように、川に幾艘もの舟を横に並べてつなげ、その上に板を渡した橋のことです。

佐野の舟橋は、奈良時代に編纂された『万葉集』の「上野の佐野の舟橋取り放し親はさくれど吾はさかるが」(現代語訳…上野国にある佐野の舟橋を取り外すように、親は私たちの仲を遠ざけるけれど、私はあなたから離れません。)という歌で広く知られ、古来より和歌や謡曲の題材として親しまれてきました。平安時代の随筆『枕草子』の橋について記した項でも取り上げられています。

北斎が生きていた江戸時代には、このような形の橋は当地にはありませんでした


がタイトルに「古づ」すなわち「古図」とあるように、古の佐野の舟橋の姿を描いたと考えられています。

本図は、「諸国名橋奇覧」シリーズで、唯一の雪の景色です。どんよりと曇った雪空の下、橋をゆく人々は皆身がかがめ、馬までもがうなだれたように歩みを進め、彼らの背には雪が降り積もります。

さらに、川面にはさざ波がたっており、身も凍るような冷たい風が吹いているようです。橋の手前から奥に進むに従い、人物を小さく描くことで画面に奥行をもたせると共に、画面に背を向けた姿で描くことにより奥へと向かう動きを強調し、描かれたものが鑑賞者から遠ざかっていくような寂しさを感じさせます。

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課

北斎さんは
どんな
人?



葛飾北斎には、小説の挿絵を描いた際に著者と喧嘩しながらも自分の絵の主張を通した話が伝わっています。

話が史実であるかに関してはいまだ確証はありませんが、北斎の一面を伝えるエピソードとして紹介します。江戸時代のベストセラー作家であった曲亭(滝沢)馬琴が書いた『三七全伝南柯夢』七巻(図1)の挿絵を北斎が担当しました。ある場面で、北斎は狐を描き加えて馬琴の小説の意を補おうとしましたが、馬琴は必要ないと喧嘩になってしまいました。

また、この小説の後編にあたる『占夢南柯後記』一卷

絵師としての意を曲げない
頑固
な人

北斎には知られざる意外な一面がありました

今回は頑固な人として紹介します

劇作家曲亭馬琴との喧嘩

葛飾北斎には、小説の挿絵を描いた際に著者と喧嘩しながらも自分の絵の主張を通した話が伝わっています。

話が史実であるかに関してはいまだ確証はありませんが、北斎の一面を伝えるエピソードとして紹介します。江戸時代のベストセラー作家であった曲亭(滝沢)馬琴が書いた『三七全伝南柯夢』七巻(図1)の挿絵を北斎が担当しました。

ある場面で、北斎は狐を描き加えて馬琴の小説の意を補おうとしましたが、馬琴は必要ないと喧嘩になってしまいました。

また、この小説の後編にあたる『占夢南柯後記』一卷

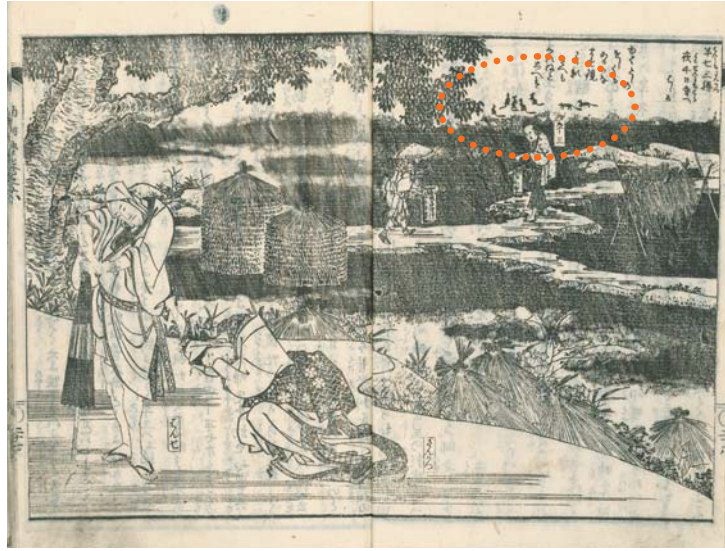


図1 『三七全伝南柯夢』七巻



描き加えられた狐

品では坊主は草履をくわえていないので、この話が真実であれば、北斎の主張が通ったこととなります。

馬琴の北斎批評

(図2)でも、馬琴による挿絵の指示では坊主が草履を口にくわえている場面に関して、北斎は汚い草履を口にくわえるはずがない、まずは馬琴が草履をくわえてみろと喧嘩になったそうです。実際の作

この他に、遺された馬琴の手紙の中で北斎について語っているものがあります。それによれば、「北斎の挿絵は、右に配置したい人物を左に直した

り、あるいは加えたり、減らしたりする。この変更は流石に一流の絵師だと感心している。北斎は絵が上手なので、小説の挿絵でも自分の作品であるため著者の指示には従わないと考えているのだろう」と述

づいています。馬琴は続けて、「北斎に挿絵を描かせる際には、右に配置したい人物は左に指示しておけば、必ず右に描いてくるだろう」と皮肉たっぷりに述べています。



図2 『占夢南柯後記』一卷



草履を口にくわえていない坊主

としても普段の生活にしても、いわゆる頑固者であったと想像できます。この頑固な性格も、北斎が数々の独自の作品を生み出した一因と考えられるのではないのでしょうか。

これらの話からは、自分の絵に誇りを持つて他の主張を取り入れない、よくいえば信念を貫く人、悪くいえば頑固者の北斎がみてとれます。このようなエピソードが伝わる葛飾北斎は、絵師



北斎には『一筆画譜』という一筆書きの絵を集めた本があります。一筆書きとは、紙から筆を一度も離さず、一本の線で絵を描くことです。

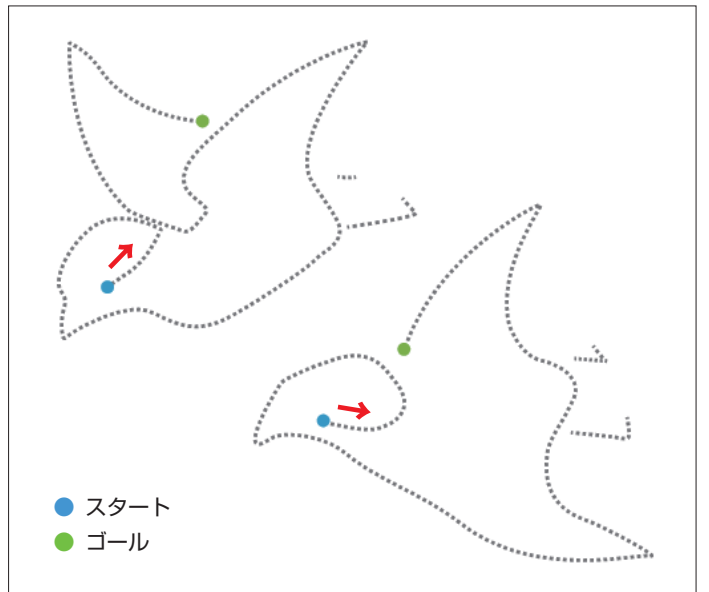
前回は一筆書きのネコを描きましたが、今回は千鳥という古くからめでた

い生き物として親しまれてきた小鳥の絵を北斎先生に習いましょう。

①の矢印に沿って線をなぞってみてね。青の点がスタート、

緑の点がゴールです。

まずは、右の図からチャレンジ！線をなぞり、最後に脚の部分を



● スタート
● ゴール

①

北斎先生の②とどっちが上手にできたかな？
よかったら年賀状に使ってみてね！

②
加えらると…空飛ぶ千鳥のできあがり！
左の図も描いてみましょう。
線をなぞると、もう一羽仲間入り！
できたら千鳥に好きな模様を描いてみましょう。

千鳥を描こう

すみだと北斎



現在の地図

現代では、雨合羽といえど、フード付レインコートのことですが、そもそも(雨)合羽は室町時代の後半、ポルトガル人らによって、ヨーロッパから伝えられた南蛮文化の品々のひとつでした。
元々は毛織物でしたが、やがて木綿に代わり、江戸時代に入ると厚手の和紙に柿渋や桐油(アブラギリの種子から採った油)を塗り重ねた、軽量の雨合羽が作られたため、旅人の必需品となりました。

パフォーマンスで巨大馬を描く

本所にはこの雨合羽に何度も桐油を塗って乾かすための、合羽(桐油)干場と呼ばれる広い場所がありました。現在、船江神社(東駒形一ー一八一ー〇)南に広がる住宅街にあたる地域です。
文政年間(一八一八ー一三〇)頃に北斎は、ここで巨大な馬の絵を描くことになりましたが、ここでのパフォーマンスは北斎の名が江戸中に知られるきっかけにもなりました。

「墨田区の北斎を知っていますか？」 を開催します。

独創的な視点で富士山を描いた錦絵「富嶽三十六景」などの作品で知られる葛飾北斎は、宝暦10年（1760年）に本所割下水（現在の墨田区亀沢）付近で生まれたと言われていいます。

北斎は、90年にわたる生涯のうち、90回以上も引越しをしたと言われていいますが、そのほとんどを墨田区内で過ごし、多くの名作を残しています。

本展では、墨田区と北斎との深い縁をわかりやすく解説したパネル展示や、北斎作品を活かした様々な商品の展示・販売をはじめ、木版画の実演（12月28日、1月4日）、墨田区に開設する「すみだ北斎美術館」の模型展示なども行います。

ぜひ、お気軽にご来場ください。

- 会場 産業観光プラザ すみだ まち処（東京ソラマチ®5階）
- 会期 平成26年12月27日（土）～平成27年1月13日（火）
- ※ 入場無料。直接会場へお越しください。



「富嶽三十六景 御厩川岸より両国橋夕陽見」
おんまやがし りょうごくばしせきようをみる



すみだ北斎美術館 外観イメージ

銭湯めぐりぶらり旅を開催しています

墨田浴場組合では「銭湯めぐりぶらり旅」を実施しています。同組合が発行している湯めぐりスタンプノートに、区内の銭湯に設置されている北斎作品のスタンプを集めると、各種特典が受けられます。

湯めぐりスタンプノートは、区内の銭湯及び各観光案内所に配布していますので、皆様もぜひお気軽にご参加ください。

■ 特典内容

- ▼ お店のポイント4個ごとに無料入浴券を1枚進呈
- ▼ 湯めぐりスタンプノートを完成された方に、「2015 富嶽三十六景 北斎浮世絵

「墨田区北斎基金」へのご寄付 インターネットを利用したクレジットカード決済が始まりました

区では、皆様とともに「すみだ北斎美術館」整備事業を進めていくため、「墨田区北斎基金」を設置し、寄付キャンペーンを実施しています。

「墨田区北斎基金」へのご寄付につきまして、これまでの納付方法（本区文化振興課北斎美術館開設担当窓口での納付、金融機関での納付）に加え、新たにインターネットを利用したクレジットカード決済が始まりました。

今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしく願います。

■ ご利用いただけるクレジットカード

▼ VISA

▼ Master Card

※ 詳細につきましては、「すみだ北斎美術館」の公式ホームページをご覧ください。

■ 問合せ先

文化振興課北斎美術館開設担当

（△031560816115（直通））



カレンダー」を進呈（先着300名限定）

湯めぐりスタンプノート有効期限 平成27年1月31日まで

■ 問合せ先

墨田浴場組合（荒井湯内）
墨田区本所2-8-7
（△031362210740）

下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどをご用意しております。是非、ご覧ください。

<http://hokusai-museum.jp>



すみだ北斎美術館